

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202857		
法人名	有限会社 のどか		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	札幌市北区あいの里2条3丁目1番3号 (電話) 011-778-8837		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】 (平成20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年3月3日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤3人, 常勤換算7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1～2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～43,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 18,000円 暖房費(11-3月) 13,000円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月 現在)

利用者人数	7 名	男性 2 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 74 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤内科 ドゥケア矯正歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「のどか」は、あいの里地区住宅街の2世帯住宅を改造した、定員7名の小規模で家庭的なグループホームである。バス停留所から徒歩3分ほどの距離にあり、周囲には遊歩道や公園のある自然豊かな環境にある。運営者は老人病院に勤務し、ホームヘルパーの養成研修を受講、更に介護福祉士と介護支援専門員の資格を取得し、認知症の人々が安心して生活することができる環境を整えたいという思いで「のどか」を設立した。運営者は、管理者を務めており職員に研修の受講や資格取得を奨励し、人材育成に力を注いでいる。今年の3月で開設3年目を迎え、家族、地域の人々との協力を得て小中学校、ボランティアとの交流を深め職員が丸一となって地域密着型サービスの提供に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回評価の改善課題である運営推進会議の議題の明示及び議事録の整理は、着実に改善されている。議題を明らかにし、その議題に関してどのような検討が行われたのかを記録している。また、議事録の記録に留まらず、ケアに関する記録業務を意識化する契機となったと捉えている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	②	全職員に自己評価表を配布し、職員は全項目に意見を記入した。管理者は、ミーティングで各々の職員の解釈の相違を確認し、意見交換を行い取りまとめた。自己評価を一年間の活動の指針として位置づけ、事業所の方向性を確認し更なるステップアップを目指して取り組んでいる。
	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 運営推進会議で家族の意見を把握するように努めている。当初は意見の表明は少なかったが開催回数を経るごとに率直な意見が出されるようになった。「のどか」通信を毎月発行し、全体の様子と個別の生活状況を報告している。来訪時に話し合われた内容は、ホーム日誌に記録し全職員が共有している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入し、花壇の管理や清掃などの役割を担っている。町内会主催の「あいあい祭り」や敬老会への参加、小学校の運動会、学習発表会、チャペルの文化祭などに招かれ地域との交流を図っている。事業所主催の夏祭りには、町内150世帯に個別の案内状を配布した。また、中学校の総合学習の一環としてボランティアを受け入れている。介護主任は、キャラバンメイトとして中学生と認知症について語り合うなどの活動を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年3月の開設時に職員と共に「地域の中で自然とふれあい、自分らしくのどかな生活を笑顔で過ごしたい」という理念をつくりあげ、その実現に向けて職員が一丸となって努力をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関の壁に掲示し、パンフレットに記載している。申し送りやミーティングなどの日々の介護場面で話し合いが行われている。「自然とふれあう」という理念に基づき公園などへの散歩や外出支援に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、花壇の管理や清掃などの役割を担っている。町内会主催の「あいあい祭り」や敬老会への参加、小学校の運動会、学習発表会、チャペルの文化祭などに招かれ地域との交流を図っている。事業所主催の夏祭りには、町内の150世帯に個別に案内状を配布した。また、中学校の総合学習の一環としてボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価表を配布し、職員は全項目に意見を記入した。管理者は、ミーティングで各々の職員の解釈の相違を確認し、意見交換を行い取りまとめた。自己評価を一年間の活動の指針として位置づけ、事業所の方向性を確認し更なるステップアップを目指して取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	利用者、家族、包括支援センター職員、民生委員 などが参加し2ヶ月毎に開催している。全家族に委 員を依頼し家族の2分の1近くの参加を得られてい る。ヒヤリハット、行事、職員の研修内容などの 報告をしている。また、虐待について話し合い、 学習を深めた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラーの設置の有無や介護報酬の理解な ど、事業所の運営等で不明な点は、市町村へ相 談、確認をしている。また、事業所での対応が困 難な場合は、市町村の職員、利用者、家族を交え て相談の場を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状 態、金銭管理、職員の異動等について、家 族等に定期的及び個々にあわせた報告をし ている	「のどか」通信を毎月発行し、個別の生活状況を 報告している。また、行事での様子は写真を拡大 し送付、家族から好評を博している。毎月、請求 書と領収書、預かり金から支出内容を記載した金 銭出納の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	来訪時に話し合われた内容は、来訪者カードや ホーム日誌に記録し、全職員が共有している。苦 情や不安に対しては、個別に話し合いの場を設け 状況に応じて書面を取り交わしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動や離 職を必要最小限に抑える努力をし、代わる 場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をし ている	管理者や介護主任は、職員の育成に真摯に取り組 んでいる。開設以来、退職者は皆無だが退職に よって職員の交代が生じた場合は、利用者に説明 をし、ダメージを軽減することができるよう配慮 したいと考えている。単独の事業所であるので他 の事業所への異動はない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、職員の段階に応じて実践者研修やリーダー研修、その他の研修に派遣している。研修に関する情報は、職員に回覧し参加者を確認して勤務体制を調整している。各々の職員は、年間で12回ほど研修を受けている。資料はファイルに保存し、ミーティングで報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は、年に2回開催される北区のグループホーム協議会の研修会に参加している。月に1回市内の同業種、異業種が開催している勉強会には、職員も積極的に参加し事例を発表している。また、参加者相互のネットワークづくりの場として位置づけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談は、自宅で介護をしている家族や入院先の病院職員、他のグループホームからの問い合わせがある。事前に本人や家族の来訪を勧め、見学や面談の場を持っている。情報を収集する、受容する、傾聴する、見守りをする、共に過ごす時間を持つなどの方法で安心感を得ることができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若年世代の職員は、野菜の皮をむく時に皮むき器を使うが、利用者が包丁でじゃが芋や大根の皮をむいているのを見て驚くことがある。また、百人一首の詠み方や札の取り方を教えてもらうこともある。職員は、利用者同士がお互いを気遣う場面をみて、支えあう人間関係を実感している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話や色々な場面において問いかけをして、思いや意向を汲み取るようにしている。思い出話や昔の話をする中で、利用者の得意な事を探り、料理や畑仕事などをやって貰っている。利用者が希望し、職員が出来ないだろうと思う事も、安全面を考慮しながら一度は体験して貰うこともある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向、入居する前の関係者などの情報と担当職員の意見を聞いて計画作成担当者が介護計画を作成し、管理者がまとめ、全職員で確認している。介護計画は、可能な限り家族の来訪時に説明し、難しい家族には郵送で承認を得ている。利用者本人にも状況に合わせて分かりやすく説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の動作能力の変化や日誌、個人記録などを基に、3ヶ月毎に見直しを行っている。入院など状態変化があった時は、随時介護計画の見直しを行い、現状に即した計画を作成している。その都度、家族と利用者説明、確認を行っている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院患者ゼロを目標に、医療連携体制を活かして入院回避を行い、事業所での点滴対応なども行っている。かかりつけ医の送迎や床屋、美容室、銭湯、買い物などの送迎も柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して、かかりつけ医か協力医療機関かを希望にそって選択して貰っている。家族が病院の送迎を行う時は、利用者の健康状態を家族に知らせ、受診結果を家族から聞くなど、利用者の健康面の把握に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の同意書を作成し、入居時に書類を取り交わしている。終末期に関しての書類は、家族との馴染みの関係が出来てから、タイミングを見て医師から家族に状況を話して貰い、個々に応じた内容の書類を作成して取り交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に関して違う言葉に置きかえて職員同士で表現したり、利用者の前で話をする時は、利用者をイニシャルで呼ぶなどプライバシーに配慮している。個人記録は事務所で保管している。面会記録は、個人記録用紙にしてプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事時間は決まっているが、朝食などは利用者の生活ペースに合わせる様に配慮をしている。日々の過ごし方については、買い物、銭湯、ドライブなど利用者の希望に可能な限り対応したり、職員から働きかけて利用者の思いを汲み取るようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、職員が利用者の希望を取り入れながら、調理師資格のある職員と共に交代で作成している。食事の準備や味見、盛りつけ、配膳など利用者の状況に合わせて手伝って貰っている。畑の収穫物を献立に入れるなど楽しい食事になるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週2～3回を目標に、それぞれの利用者に合わせて入浴をおこなっている。午前入浴も希望により可能になっている。夜間入浴も希望があれば対応は可能である。会話をしながら利用者の入浴のタイミングを見て、スムーズに入浴出るように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、日めくりをめくる、食事の準備、雑巾がけ、新聞や本の朗読など、それぞれの得意な事をして貰う事により張り合いのある生活が出来るように工夫している。外食やカラオケ、ゲームなど希望に沿って暮らせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は、天気や利用者の状況を見ながら毎日近くの公園に散歩に出かけている。車いすの利用者も一緒に散歩を楽しんでいる。一人での外出を希望する利用者には、家族と相談してGPS機能付き携帯電話を持参して貰い、外出を楽しめるように工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠する事なく、夜間のみ施錠している。玄関にセンサーを付けたり、職員が利用者の居場所を把握する事で見守りを行い、外出した時は声かけをして一緒に出かけるなど、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	自衛消防隊を結成して災害時の役割分担をしている。年1回消防署の協力を得ての避難、消火、救急救命などの訓練を行っている。今後は、年2回の避難訓練を実施していく予定である。運営推進会議の議題に取り上げ、訓練時には、近隣に案内を配布している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食全員記録しているが、水分摂取量は、不足しがちな3名のみ現在記録をしている。食事以外で1500ccを目標にし、不足しがちな時は、ゼリーやアイスクリームなど、利用者に応じて摂取しやすい物に代えるなどの配慮をしている。	○	利用者の健康状態の把握のためにも、全員の水分摂取量の記録を期待したい。献立は、定期的に管理栄養士による栄養チェックをして貰うように期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備をする様子や調理中の匂いなど、身近に生活感が感じられるように意識した共有空間づくりがなされている。食卓テーブルには季節の花を飾って季節感が感じられるよう配慮されている。居間からは、庭や畑が見渡せるようになっていて、室内からも四季の移り変わりを感じる事が出来るようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には、職員の手作りの表札をかけた暖簾を付ける事により、それぞれの利用者が分かりやすいように工夫されている。居室には、筆筒や鏡台、椅子などの使い慣れた家具や、家族の写真などが飾られ、利用者が居心地良く過ごせる様に工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。